



みやぎ

— 67号 —

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院
 発行責任者 広報委員長 安藤 肇史
 〒989-2202
 宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

院長挨拶 ～ 連帯ということ ～

院長 永野 功

令和2年度が始まり、宮城病院も多くの新採用者や転入者の方を迎えることができました。今年度は宮城病院創立100周年である2039年に向けて歩き出す第一歩の年であり、われわれにとって広報「みやぎ」1月号に書いたような様々な新しいチャレンジが待っています。しかしながら、1月には想像もしなかったような新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックが、日本と世界をおおっています。比較的感染者の少なかった東北地方も4月に入ってからは日に日に感染者が増加しており、国内外の感染状況を見るにつけわれわれは言いようのない不安感を覚えずにはいられません。わが宮城病院としては院内感染を防止し職員の健康を守るためにさまざまな対策を打ち出していますが、職員の皆さんは職場や家庭でさまざまなご苦労を経験しておられることと思います。このパンデミックがいつまで続くのかまったく見通せないことも、われわれの不安感を一層かきたてるものです。

このような未曾有の困難の中でわれわれはどう行動すべきでしょうか。医療者として、市民として、また家族の一員として自分の置かれた状況を見極め、自分のなすべきことをするということが基本だと思います。医療者には「患者を守る」というプロフェッショナリズムに基づいた明確な使命があります。われわれが日々接している患者さんは、言うまでもなく COVID-19 に罹患すれば重症化のリスクが高い、また我々自身も感染すればウイルスを広げる危険性がある。この状況下で患者を守るというミッションは、さまざまな医療職種が団結し協働しなければ果たせません。さらに、医療活動を支える清掃や保守、管理、物流、警備などに携わる多くの人たちがいます。このような時こそ、多様な職種がお互いに感謝とリスペクトを持って連帯していかなければならないと切実に感じます。



前列左から
 宮里看護部長、安藤特命副院長、永野院長
 久永副院長、西村薬剤部長、小山副看護部長
 後列左から
 大坂管理課長、岩崎企画課長、宗像事務部長
 増田経営企画室長

フランスのエコノミスト、ジャック・アタリ氏が最近、インタビュー番組できわめて重要なことを言っていました。「COVID-19 のパンデミックは世界的な危機である。この中で分断や孤立主義がはびこり、連帯のルールが破られる危険性がある。パンデミックという深刻な危機に直面した今でこそ『他者のために生きる』という人間の本质に立ち返らなければならない。利他主義への転換こそ人類生存のカギである。」新型コロナウイルスのパンデミックは、ワクチンや治療薬の開発などで、いつかは必ず終わります。パンデミック後の日本や世界はどうなっているのか。深刻な不況や社会的な混乱が地球規模でおこるといふ悲観的な予測も出ています。われわれは医療者として一市民として院内外で人々と連帯してこの危機を克服し、アタリ氏のいう利他的で共感に満ちた「ポジティブ社会」を構成する一員になりたいと願うばかりです。

基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。

※ 都合により7月発行予定の「広報みやぎ」を休刊とさせていただきます



宮城病院公式マスコットキャラクター
 「みやべりー」

地域包括支援センターを開設しました

医療や介護、生活支援などを一体的・包括的に提供する地域包括ケアシステムの充実を図るため、令和2年4月1日より山元町役場から委託を受け業務を行っています。スタッフは保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャー、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター2名、介護支援専門員2名の計8名です。

地域包括支援センターは介護予防マネジメント業務、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的継続的ケアマネジメント業務、生活支援体制整備業務、認知症地域支援推進業務、地域包括ケアシステムの実現に向けた業務などを行います。地域に密着した当院だからこそ地域の事業所と連携を図り、訪問看護や訪問リハビリなど当院の持つ機能も活用できるため、山元町の皆さんに満足していただけるように業務を行ってまいります。よろしくお願い致します。



(山元町地域包括支援センター 保健師 佐藤 かおり)



訪問リハビリ始めました!!

令和2年4月より「訪問看護ステーションかけはし」からの「訪問リハビリテーション」が開始となりました。

専門の理学療法士、作業療法士が直接ご自宅に訪問し、より自分らしい生活を送っていただけるよう、身の回りの動作練習や、寝たきり予防、ご家族様への介護・リハビリ方法指導、趣味活動、住宅改修や福祉用具のアドバイスをさせていただきます。

たとえば、「もう少し楽にトイレ動作ができないかなあ?」、「あまり動かないから、体力が落ちないか心配・・・」、「少しでも外に出たいな」など、ご利用者様やご家族様の不安、問題に対して、対応していきます。訓練内容は病院で行っていたような、関節可動域訓練や歩行練習を行ったり、実際生活されるご自宅での日常生活動作の練習を中心に行ったりと、内容は様々です。



皆様が『笑顔』になれるように、在宅での生活を全力で支援していきますので宜しくお願い致します。

(主任作業療法士 角 知弘)

Q C 発表会

令和2年1月29日(水)宮城病院QCサークル活動発表会が行われました。今年度は11サークルから発表があり、各職場で取り組んだ成果が発表されました。当院のQC活動は今年で12年目を迎え、QC手法の活用や発表は年々レベルアップしております。その中でも、入賞された3サークルはQC活動の過程はもちものこと、PDCAサイクルもしっかりしており素晴らしい内容のQC活動でした。

また、惜しくも入賞を逃したサークルもいかに業務や病院の経営をよくするか、様々な角度からの取り組みをされ、工夫を凝らした活動でした。

最後に、今回発表されたサークルにおかれましては、業務多忙の中、QC活動に取り組んでいただき大変ありがとうございました。次年度もさらにレベルアップした活動を期待しております。

(庶務班長 舞原 範夫)



令和元年度 第12回QCサークル活動発表会
～順位結果～

【最優秀賞(1位)】

職場：栄養管理室

サークル名：プロジェクト76

テーマ：特別治療食入力もれをなくそう

【優秀賞(2位)】

職場：中央病棟1階

サークル名：ヨークなるナル山元店

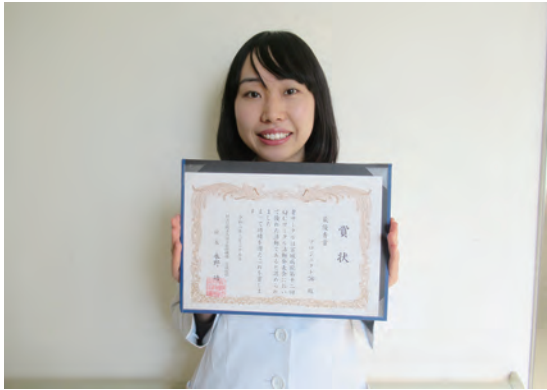
テーマ：与薬手順の統一化による事故防止

【優秀賞(3位)】

職場：診療放射線科

サークル名：ラジエーションハウス

テーマ：撮影件数と算定件数をあわせていこう



最優秀賞を受賞した栄養管理室の齋野 美侑さん

栄養管理室より

私たち栄養管理室は“良い医療を安全に 心を込めて”という理念のもと、おいしくない病院食というイメージを一新することを心がけ、「目で見て美しく、味わっておいしい病院食」の提供に努めています。食事は治療の一環ですが、毎日の楽しみでもあり入院生活に欠かせないものです。

栄養管理室から四季や行事を少しでもお届けできるよう、また入院中の楽しみや励みとなるよう、折り紙にも力を入れて行事食を提供しております。

これからもたくさんの「おいしい！」を感じていただけるよう頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

(栄養管理室長 小端 晶子)



お花見



イースター



バレンタイン

今夏、宮城病院で新しい治療が始まります

MRガイド下集束超音波治療器導入決定！

令和2年2月15日新しくなった亘理町保健福祉センターいきいきホールで、「在宅医療・介護に関する講演会」が開催されました。当院永野院長と星訪問看護ステーション「かけはし」所長が地域医療や訪問看護に関する講演を行いました。その際講演の主題とは異なりますが宣伝の意味も含めて私が行った講演の題目が上の表題です。

MRガイド下集束超音波治療器については、これまでテレビなどのマスコミに取り上げられたことは何回かありますが全国でも限られた施設でしか行われていない治療であるため殆どの方は知らないと思います。本態性振戦やパーキンソン病に対して保険適応となっており今年の8月頃から当院で稼働予定です。東北地方では初めての導入になりますので、ぜひ地域の方々にも病気とその治療について知ってもらいたく今回の講演に追加させていただきました。

これまで当院で行ってきた脳深部刺激術の一部はより侵襲性の低いこの治療になります。ただそれだけでなく、これまで手術を躊躇していた患者さんや振戦に困りながらも治療方法を知らないため日常生活を我慢していた患者さんにも積極的に治療を勧めるつもりです。そのためには今回のようなある意味宣伝活動も必要となりますので、これからも機会があればいろいろな場で発表をしていきたいと思えます。

(特命副院長 安藤 肇史)



病院機能評価更新認定

当院は公益財団法人日本医療機能評価機構より、病院として組織全体の運営管理および提供する医療について、その質を一定の基準以上に保っていると認定されました。

病院機能評価とは、病院の機能を改善することにより、医療の質を高めることを目標として第三者（財団法人日本医療機能評価機構）に調査をしていただくものです。この調査を受審し、評価項目において適切であると判断を受けた場合に、認定証が交付されます。

病院機能評価は、患者様が安全で安心な医療を受けられるよう、同機構が専門的な見地から評価を行うものです。当院は2014年6月に初回認定され、昨年6月に2回目の評価を受審し、このほどその認定を更新することができました。受審に当たっては病院全職員が準備を行い、当院の提供する医療機能を皆で取り組みました。認定病院としてふさわしい病院であり続けられるよう、医療サービスの

質の維持・改善に努めてまいります。今後も、亘理郡唯一の病院として職員一同、努力し地域医療に貢献していきたいと考えております。

(管理課長 大坂 雄二)



山元町「家族に乾杯」鶴瓶師匠が宮城病院に来院！！

2月上旬の穏やかな土曜日、病院事務日直者より「鶴瓶さんが、病院に来ています！」と1本の電話が入り意味がよく分からず、1階受付に降りたところ、本物の鶴瓶師匠とTV撮影隊らしい方々、約10名が既に当院に到着されておりました。担当プロデューサーの方からNHK「鶴瓶の家族に乾杯」ロケで山元町にきましたとのお話で、当院職員のご家族と町内で出会い、勤務中のご家族に会いにきたとのことでした。外来待合ホールで撮影を行い、職員とそこのご家族との撮影を無事に終わりました。



全国的にも人気番組で、宮城県山元町では初ロケ、3月放送の番組でも山元町特産品のいちごやホッキ貝など地域の方々とのふれあいが多く紹介され、楽しい番組となっていました。突然の訪問に驚きましたが、最後には鶴瓶師匠が快く病院関係者と記念撮影に応じていただきました。また今後も魅力ある山元町に来ていただきたいと願っております。

(管理課長 大坂 雄二)

みやべりー商標登録なる



宮城病院の公式マスコットキャラクター「みやべりー」に特許庁長官から商標登録票の交付がありました。

事前審査の後、出願から登録まで約半年かかりましたが、晴れて登録されましたので、報告いたします。今後も今まで以上に活用し、愛されるキャラクターになってほしいです！

(庶務係長 小原 有里)

連携室のコーナー

こんにちは！地域医療連携室の川村と申します。今回の連携室コーナーでは、指定難病の医療費助成制度についてご紹介したいと思います。この制度は、指定難病の方で認定基準を満たしている場合、医療機関窓口へ受給者証を提出すると医療費の自己負担を軽減することができます。自己負担の限度額は所得に応じて定められており、月毎に医療費が上限に達するとそれ以上の負担は発生しません。制度の対象となるかどうかは主治医へご相談ください。受給者証を取得するためには、必要書類を準備して市区町村ごとに管轄されている保健所へ申請する必要があります。申請したその日から制度が適用されるため、対象の方は早めに手続きを行うと良いでしょう。また、受給者証には有効期限があり、1年に1回更新申請が必要となります。制度について何か分からないことがあれば、お気軽に地域医療連携室までご相談ください。

主な対象疾患はこちら

- ・パーキンソン病
- ・多系統萎縮症
- ・脊髄小脳変性症
- ・大脳皮質基底核変性症
- ・プリオン病
- ・筋萎縮性側索硬化症
- ・進行性核上性麻痺
- ・筋ジストロフィー
- ・多発性硬化症
- ・ベーチェット病
- etc...

(医療社会事業専門員 川村 健太)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
脳神経内科 (新患は予約制)	新患	久永 欣哉	小野 紘彦	宮澤 康一	松本 有史	
	再来	永野 功	久永 欣哉	永野 功	久永 欣哉	久永 欣哉
		小野 紘彦		松本 有史		金子 仁彦(隔週)
内科		清野 仁	清野 仁	志澤 聡一郎	清野 仁	清野 仁
		志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	齊藤 秀行	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
			齊藤 秀行			東北大学病院から
循環器内科	午前		東北大学病院から			
	午後	東北大学病院から (検査日)				
呼吸器内科				佐藤 慶		蒲生 俊一
消化器内科	午後			県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	
外科 (総合診療外科)	午前	八巻 孝之		八巻 孝之	八巻 孝之	
	午後		(手術日)		(手術日)	
アレルギー科	午前	堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
		東北大学病院から		東北大学病院から		東北大学病院から
整形外科	午後					県立がんセンターから (13:30~15:30)
形成外科	午後			館 一史		澤村 武 (隔週 13:30~15:30)
皮膚科					東北大学病院から	
脳神経外科		永松 謙一	安藤 肇史	仁村 太郎	(手術日)	安藤 肇史
		(仁村 太郎)				永松 謙一
歯科		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	頭痛外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	もの忘れ外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ALS外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	糖尿病外来				東北大学病院から	
	禁煙外来	午後				山本 蒔子 (第2・4週)
	女性外来	午後				山本 蒔子 (第2・4週)
	漢方外来		志澤 聡一郎			志澤 聡一郎
	腎臓病外来	午後			若林病院から (第1・3週)	
	入れ歯外来				伊藤 秀美	伊藤 秀美

受診される方へ

- ①受付時間は8:30~11:00です。
- ②土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
ただし、**急患の方は随時受付いたします。**
お問い合わせ先 0223-37-1131
- ③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2,750円を負担**していただくことになりますので予めご了承願います。

交通のご案内

●自動車でおいでの方●

■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。
高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

●交通機関をご利用の方●

■仙台方面から

JR常磐線巨理駅下車、タクシーまたはJR代行バス(詳しくはお問い合わせください。)

